

ファッションとエコに関する意識調査

—本学学生と中国浙江紡織服装職業技術学院学生に対するアンケート調査—

Survey on the Students' Awareness of Fashion and Ecology:

Questionnaire for the Students of Sugino Fashion College and Zhejiang Fashion Institute of Technology

田原 美津子 井口 多恵子 水上 雅子 盧 繁華
TAHARA, Mitsuko IGUCHI, Taeko MIZUKAMI, Masako RO, Hanka

I. はじめに

わが国では90年代にさまざまな環境問題に対する法律が制定され、2000年には3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進、廃棄物の適正処理の推進といった循環型社会を進めていく上で基本的な枠組となる循環型社会形成推進基本法が制定された¹⁾²⁾。翌2001年には環境省が発足し、新たな法の制定やすでに施行されている法の改正が行われ、循環型社会づくりがスタートした。現在では、資源となるものは廃棄せず、分別し、回収することが当たり前のこととなりつつあり、身近な物としてペットボトルのリサイクル率は約85.8%、古紙の利用率は63.9%を示している³⁾。

しかし、一方で繊維製品の衣料品のリサイクル率は26%程度に留まっている⁴⁾。和服がかつて日常着だった頃は悉皆という今日のリユース、リサイクルの流れが日々の生活に根付いていた。洋服の着用が主である今日でも、古着を購入し着用することや着なくなった服を自治体や店頭等に持ち込んで回収する、子供服を親族や知人に譲るなどのリサイクルの流れはあるものの、繊維3R率は低い水準に留まっている。今後、衣料品の3Rを推進し循環型社会を定着させるためには、ファッションの場面に特定せず、ライフスタイルを多方面から調査し、エコに関する人々の実態を明らかにすることが重要だと考える。

今回はその一歩として、生まれた時から分別回収などのエコ活動が生活に浸透し、ファッションについて学んでいる本学学生のファッションとエコに関する実態を明らかにすることを目的に調査を行った。また、学生を取り巻く生活環境や文化がファッションとエコに関する意識にどのような影響をもたらすのかに着目し、協定校の同年代の学生を対象に調査し、比較・検

討した。

協定への経緯

2008年12月、中国の浙江省にある浙江紡織服装職業技術学院と「両校友好交流に関する協定」を締結し、2010年9月、浙江紡織服装職業技術学院国際学院との共同で教育を行う杉野服飾大学日中服飾専門課程を設立し、初めての入学式が行われ、2012年9月から派遣教員による服飾造形の授業が開始された。現在264名の学生が在籍している。

II. 調査方法

1. 調査対象

平成26年度に入学した本学の大学生・短大生（服飾専攻）、協定校である浙江紡織服装職業技術学院国際学院日中クラス2年生、浙江紡織服装職業技術学院服装学院服装クラス2年生を対象とした。（以降、浙江紡織服装職業技術学院の学生を学院生とする）有効回答数、回答率はそれぞれ、本学161名（男性28名17.39%、女性128名79.50%、性別不明5名3.11%）約97.5%、学院生204名（男性32名15.68%、女性172名84.31%）約97.6%、合計365名を対象に分析を行った。

2. 調査時期及び方法

本学において平成27年5月中旬から月末まで、中国において平成27年4月中旬から月末まで2つの学院でアンケート調査を行った。調査は無記名の自記式調査用紙を各担当教員に配付し、調査にあたっては個人を特定せず、本研究のためだけに結果が利用されることを説明して同意を得、加えて回収の協力を依頼した。全体回答数の1/4以上の無回答であるものを除いて

有効サンプル数とした。

3. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

基本特性、ファッション特性、エコ意識を設定した。

①基本特性

現在の居住形態である生活環境を設問とした。

②ファッション特性

ファッション特性は、ファッションへの興味（興味を持ち始めた年代、きっかけ・流行への興味、情報の取り入れ方法）、洋服の取得の実態（取得方法、購入場所、新品の購入、古着の所持）を設問とした。

③エコ意識

エコ意識は、洋服のエコについての実態（直し、「リメイク」の経験の有無・関心、処分方法）、一般的なエコについての実態（分別回収・エコ活動への参加の有無、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の理解度・エコの知識への関心度）を設問とした。

今回、「リデュース」「リユース」「リサイクル」は下記のように定義した。

「リデュース」Reduce は、使用済みになったものが、なるべくごみとして廃棄されることが少なくなるように、ものを製造・加工・販売すること。

「リユース」Reuse は、使用済みになっても、その中でもう一度使えるものはごみとして廃棄しないで再使用すること。

「リサイクル」Recycle は、再使用ができずにまたは再使用された後に廃棄されたものでも、再生資源として再生利用すること⁵⁾。

4. 分析方法

回答結果は、統計解析ソフト SPSS Statistics 18.0 を用いて記述統計処理を行った。国別の比較では、クロス集計の後、 χ^2 の検定を用いて有意性を検討した。表中に出てくるP値とは、比較した群間に差が無いという仮定が正しい確率のことである。今回の検定では、有意差水準（有意差があるかどうか）を5%とし、有意差のみられるものには $p < 0.05$ 、有意差のみられないものはn.s. (noto significant)と表記した。

Ⅲ. 調査結果および考察

1. 基本特性

生活環境（表1）

本学学生は実家暮らし（家族と一緒に）が119人（73.91%）、学院生は寮生活が191人（93.63%）と高い割合を示した。この大きな違いは、本学学生は東京近郊に住んでいる学生が多く、中国では大学や専門学校などは全寮制での学校生活を送ることが一般的である⁶⁾からと考えられる。

2. ファッション特性

1) ファッションへの興味（興味を持ち始めた年代）（表2）

ファッションに興味を持ち始めた年代として、本学学生は小学生時代48人（29.81%）、中学生時代47人（29.19%）、高校生時代42人（26.09%）と各時代で25%を超えた。学院生は高校生時代87人（42.65%）、19歳から現在まで43人（21.08%）であった。本学学生のほうが早い時期からファッションに興味を持ち始めていると思われる。

2) ファッションへの興味（きっかけ・流行への興味）（表3、4、5）

「ファッションに興味を持ったきっかけ」では、ファッション雑誌が本学学生64人（39.75%）、学院生100人（49.02%）、テレビ・映画等のモデルや歌手は本学学生58人（36.02%）、学院生95人（46.57%）であった。

流行への興味に関して、本学学生は大いにある44人（27.33%）、少しある61人（37.89%）、学院生は大いにある117人（57.35%）、少しある77人（37.75%）であり、両学生ともに興味を持っている値が高い。本学学生のどちらでもない26人（16.15%）、あまりない20人（12.42%）、まったくない9人（5.59%）であるのに対して、学院生のどちらでもない4人（1.96%）、あまりない4人（1.96%）、まったくない0人、と本学学生より低い値であった。また、「流行への興味・関心がない」の中の「流行を取り入れない理由」として本学学生は、同じ格好になるのは嫌19人（65.52%）、自分らしくないから10人（34.48%）、学院生は自分らしくないから4人（100%）となり、独自の装いにこだわりを持つ学生がいるのではないかと考えられる。

3) ファッションへの興味（情報の取り入れ方法）（表6）

ファッションの情報入手手段は、本学学生はファッ

ション雑誌85人 (52.80%)、ネット73人 (45.34%)、
 大学院生はファッション雑誌121人 (59.31%)、ネット
 115人 (56.37%) であり、両学生ともに雑誌から情報
 を得ている値が高い。ファッション雑誌は授業でも用
 いることがある。ネットは素早く情報を得ることがで
 きるため、それらの利用者が多いと推測される。

4) 洋服の取得の実態 (取得方法) (表7、8)

「洋服の購入時に誰と行くか」では、本学学生は1
 人108人 (67.08%)、友達41人 (25.47%) であるが、
 大学院生は友達119人 (58.33%)、親51人 (25.00%)、
 兄弟22人 (10.78%) となり、誰かと一緒に買いに行
 く学生の割合が94%を超えていた。中国では、「ひとり
 飯」などはタブーとされているが⁷⁾、その習慣のため、
 大学院生は1人で洋服を買いに行く人が32人
 (15.69%) と少なく、老若男女とも複数で行動する
 ことが一般的であると推測される。

購入方法としては、本学学生はお店に行って買う
 156人 (96.89%)、ネットで買う73人 (45.34%)、学
 院生はお店に行って買う186人 (91.18%)、ネットで
 買う172人 (84.31%) であり、両学生ともにお店に足
 を運んで購入する割合が高かった。ネットで買うとい
 う割合には差があり、大学院生は本学学生の約2倍の割
 合で高かった。これは、大学院生の生活が全寮制である
 こと、学校の所在地が郊外であることに加えて、宅配
 の利便性の良さが考えられる。

5) 洋服の取得の実態 (購入場所・新品の購入・古着 の所持) (表9、10、11)

購入場所では、本学学生はファストファッションス
 トア90人 (55.90%)、古着屋83人 (51.55%)、大学院
 生はネットショッピング123人 (60.29%)、ショッピン
 グモール103人 (50.49%) が高い値を示していた。本
 学学生はショッピングモール58人 (36.02%)、ネット
 ショッピング32人 (19.88%) であり、大学院生はファ
 ストファッションストア20人 (9.80%)、古着屋4人
 (1.96%) となった。

新品の購入では、いつも購入する、たまに購入する
 が両学生ともに90%を超えていた。

古着の所持では、本学学生はすべて古着である9人
 (5.59%)、少し古着を持っている119人 (73.91%)、
 まったく持っていない31人 (19.25%) であり、学院
 生はすべて古着である9人 (4.41%)、少し古着を持っ
 ている59人 (28.92%)、まったく持っていない135人
 (66.18%) となった。

日本では、古着屋に行って手に入れることや表18、
 19から所持している服を古着屋に持っていくことが身
 近であり、古着をファッションの一つとして考えられ
 ている。学院の所在地周辺では古着を扱う店舗を見か
 けることはなかった。大学院生の古着所持の割合は
 33.33%であった。これは表18の処分方法で、着なく
 なった服を譲る115人 (56.37%)、表20の兄弟、姉妹、
 友達、知人の値で示しているように古着を好んで購入
 することはあまりないが、人から譲り受けることの表
 れではないかと考えられる。

表1 生活環境 (居住形態)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
実家 (家族と一緒に)	119	73.91%	7	3.43%	p=0.000
寮	18	11.18%	191	93.63%	
1人暮らし	14	8.70%	3	1.47%	
その他	4	2.48%	0	0.00%	
不明	6	3.73%	3	1.47%	

表2 ファッションに興味を持った年代

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
5歳頃まで (小学生前)	13	8.07%	6	2.94%	p=0.000
6~11歳頃まで (小学生時代)	48	29.81%	26	12.75%	
12~14歳頃まで (中学生時代)	47	29.19%	40	19.61%	
15~18歳頃まで (高校生時代)	42	26.09%	87	42.65%	
19歳~現在	9	5.59%	43	21.08%	
不明	2	1.24%	2	0.98%	

表3 ファッションに興味を持ったきっかけ

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
テレビ・映画等のモデルや歌手	58	36.02%	95	46.57%	p=0.043
ファッション雑誌	64	39.75%	100	49.02%	n.s.
家族	36	22.36%	44	21.57%	n.s.
友人や親しい人	38	23.60%	39	19.12%	n.s.
その他	21	13.04%	44	21.57%	p=0.035

表4 流行への興味・関心

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
大いにある	44	27.33%	117	57.35%	p=0.000
少しある	61	37.89%	77	37.75%	
どちらでもない	26	16.15%	4	1.96%	
あまりない	20	12.42%	4	1.96%	
まったくない	9	5.59%	0	0.00%	
不明	1	0.62%	2	0.98%	

表5 流行への関心・興味（流行に興味がありません・まったくない）×流行を取り入れない理由

(複数回答)

	本学 n=29		学院 n=4		p 値
	f	%	f	%	
価格的に無理	4	13.79%	2	50.00%	n.s.
自分らしくないから	10	34.48%	4	100.00%	p=0.036
同じ格好になるのは嫌	19	65.52%	2	50.00%	p=0.000
体型的に無理	1	3.45%	0	0.00%	n.s.
その他	8	27.59%	1	25.00%	p=0.006

表6 ファッション情報の入手手段

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
タレント、歌手、モデル	60	37.27%	71	34.80%	n.s.
ファッション雑誌	85	52.80%	121	59.31%	n.s.
ネット	73	45.34%	115	56.37%	p=0.036
ショッピング	64	39.75%	81	39.71%	n.s.
友人や家族	31	19.25%	39	19.12%	n.s.
その他	17	10.56%	22	10.78%	n.s.

表7 購入時の同行者

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
1人	108	67.08%	32	15.69%	p=0.000
友達	41	25.47%	119	58.33%	p=0.000
親	25	15.53%	51	25.00%	p=0.027
兄弟	4	2.48%	22	10.78%	p=0.002
その他	1	0.62%	4	1.96%	n.s.

表8 洋服の取得方法

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
お店に行って買う	156	96.89%	186	91.18%	p=0.026
ネットで買う	73	45.34%	172	84.31%	p=0.000
テレビ・雑誌の通販で買う	9	5.59%	7	3.43%	n.s.
家族や知人から譲り受ける	28	17.39%	39	19.12%	n.s.
自分で作る	13	8.07%	33	16.18%	p=0.021
その他	1	0.62%	6	2.94%	n.s.

表9 洋服の購入場所

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
ファストファッションストア	90	55.90%	20	9.80%	p=0.000
チェーンストア	47	29.19%	75	36.76%	n.s.
アウトレット	42	26.09%	28	13.73%	p=0.003
古着屋	83	51.55%	4	1.96%	p=0.000
雑誌でとりあげられた店	19	11.80%	10	4.90%	p=0.016
ファッションビル	53	32.92%	44	21.57%	p=0.015
デパート	19	11.80%	69	33.82%	p=0.000
家の近くのなじみの店	11	6.83%	78	38.24%	p=0.000
ショッピングモール	58	36.02%	103	50.49%	p=0.006
ネットショッピング	32	19.88%	123	60.29%	p=0.000
通販	1	0.62%	0	0.00%	n.s.

表10 新品の購入

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
いつも新品を購入する	69	42.86%	70	34.31%	
たまに新品を購入する	83	51.55%	129	63.24%	n.s.
まったく購入しない	5	3.11%	4	1.96%	
不明	4	2.48%	1	0.49%	

表11 古着の所持

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
すべて古着である	9	5.59%	9	4.41%	
少し古着を持っている	119	73.91%	59	28.92%	p=0.000
まったく持っていない	31	19.25%	135	66.18%	
不明	2	1.24%	1	0.49%	

3. エコ意識

1) 洋服のエコについての実態 (直し、リメイクの経験の有無・関心) (表12、13、14、15、16、17)

洋服の直しについて、本学学生は自分で直した121人 (75.16%)、お店に頼んだ12人 (7.45%)、直した

ことがない27人 (16.77%)、学院生は自分で直した68人 (33.33%)、お店に頼んだ61人 (29.90%)、直したことがない87人 (42.65%) となった。

直した箇所については、本学学生はボタンを付け直す104人 (78.20%)、ほどこけた裾を縫い直す60人 (45.11%)、

丈を短くする59人(44.36%)、学院生は丈を短くする65人(54.17%)、ボタンを付け直す38人(31.67%)であった。ボタンの付け直し、裾の縫い直しなどは、服飾造形の授業で縫製方法を修得しているの、自分で直すことをしているのだと思われる。

リメイクに関して、本学学生は言葉の意味を理解している138人(85.71%)、聞いたこともない1人(0.62%)であり、学院生は言葉の意味を理解している57人(27.94%)、聞いたことはある81人(39.71%)、聞いたこともない64人(31.37%)となった。リメイク経験では、本学学生はある53人(32.92%)、ない107人(66.46%)であり、学院生はある38人(18.63%)、ない166人(81.37%)となった。本学学生は言葉の意味を知っている割合は高かったが、リメイクの経験数の割合は低かった。両学生のリメイク経験がないという回答に関して、表16から本学学生はとても思う33人(30.84%)、少し思う45人(42.06%)、学院生はとても思う25人(15.06%)、少し思う92人(55.42%)であった。直し、リメイクの方法について、本学学生はぜひ学びたい60人(37.27%)、機会があれば学びたい76人(47.20%)、学院生はぜひ学びたい50人(24.51%)、機会があれば学びたい120人(58.82%)であった。本学学生は直しの経験は高い割合であるが、リメイクの経験は低い割合を示している。また、学院生は直しとリメイクの両方の経験の割合が低い値を示している。しかし、両学生ともに直しやリメイク方法についての興味や関心は高い値で表れているので、直しやリメイク方法を実践する機会を働き掛けていくことにより、エコへの意識が変わってくると思われる。

2) 洋服のエコについての実態(処分方法)(表18、19、20)

着なくなった服の処分として、本学学生は捨てる84人(52.17%)、売る90人(55.90%)、譲る66人(40.99%)であり、学院生は捨てる130人(63.73%)、売る28人(13.73%)、譲る115人(56.37%)であった。「売る」の方法としては、本学学生は古着屋に持っていく62人(68.89%)に対し、学院生は4人(14.29%)と低い値であった。

「譲る」の譲り先は、本学学生は兄弟、姉妹が29人(43.94%)、友達・知人が38人(57.58%)、学院生は兄弟、姉妹が42人(36.52%)、友達・知人が23人(20.00%)という値であった。

3) 一般的なエコについての実態(分別回収・エコ活動参加への有無)(表21、22、23)

分別回収では、本学学生はペットボトル139人(86.34%)、ビン・缶128人(79.50%)、紙類80人(49.69%)、携帯電話10人(6.21%)であり、学院生はペットボトル146人(71.57%)、ビン・缶133人(65.20%)、紙類112人(54.90%)、携帯電話60人(29.41%)となった。携帯電話の回収以外は比較的両学生ともゴミとして捨てずに回収することが根付いていると考えられる。

イベントの参加では、本学学生はある15人(9.32%)、ない146人(90.68%)であり、学院生はある50人(24.51%)、ない154人(75.49%)となった。新たに取り組めそうなエコ活動では、本学学生はある26人(16.15%)、ない134人(83.23%)であり、学院生はある32人(15.69%)、ない171人(83.82%)となった。両学生ともに活動への積極的参加はしていない状況が見られた。

4) 一般的なエコについての実態(「リデュース」「リユース」「リサイクル」の理解度、エコの知識への関心度)(表24)

3R(リデュース・リユース・リサイクル)の理解度で比べると、リサイクルの意味を理解している本学学生は137人(85.09%)、学院生は112人(54.90%)となった。リユースの意味を理解している本学学生は95人(59.01%)、学院生は99人(48.53%)となり、両学生ともリサイクルの理解度より低い値であった。リデュースの意味を理解している本学学生は81人(50.31%)、学院生は35人(17.16%)であり、さらに理解度は低くなっている。特にリデュースという言葉聞いたことがない学院生は98人(48.04%)であり、2つの言葉との理解の差が大きかった。3Rの言葉の理解度は本学学生が高い割合を示しているが、リデュースの意味の理解度についてはリサイクル、リユースの意味の理解度より低い値であり、一般的な言葉として浸透していないと思われる。「衣服に関するリサイクル意識と行動」においても3Rのリデュースの認知度が低かった⁸⁾。

エコの知識について、本学学生はぜひ深めたい38人(23.60%)、少しは深めたい90人(55.90%)であり、学院生はぜひ深めたい104人(50.98%)、少しは深めたい89人(43.63%)となった。両学生ともにエコの知識を深める意欲はあると考えられる。

表12 洋服の直し

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
自分で直した	121	75.16%	68	33.33%	p=0.000
お店に頼んだ	12	7.45%	61	29.90%	p=0.000
直したことがない	27	16.77%	87	42.65%	p=0.000
不明	1	0.62%	0	0.00%	

表13 直した箇所

(複数回答)

	本学 n=133		学院 n=120		p 値
	f	%	f	%	
丈を短くする	59	44.36%	65	54.17%	n.s.
ボタンを付け直す	104	78.20%	38	31.67%	p=0.000
ほどけた裾を縫い直す	60	45.11%	29	24.17%	p=0.000
サイズ直し	13	9.77%	40	33.33%	p=0.020
その他	4	3.01%	16	13.33%	p=0.026

表14 「リメイク」の理解度

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
言葉の意味を理解している	138	85.71%	57	27.94%	
聞いたことはある	21	13.04%	81	39.71%	p=0.000
聞いたこともない	1	0.62%	64	31.37%	
不明	1	0.62%	2	0.98%	

表15 「リメイク」の経験

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
ある	53	32.92%	38	18.63%	
ない	107	66.46%	166	81.37%	p=0.002
不明	1	0.62%	0	0.00%	

表16 「リメイク」の経験 (ない)×「リメイク」の体験への興味・関心

	本学 n=107		学院 n=166		p 値
	f	%	f	%	
とても思う	33	30.84%	25	15.06%	
少し思う	45	42.06%	92	55.42%	p=0.002
どちらとも思わない	14	13.08%	21	12.65%	
やりたいと思わない	11	10.28%	19	11.45%	
不明	4	3.74%	9	5.42%	

表17 「直し」「リメイク」の方法への興味・関心

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
ぜひ学びたい	60	37.27%	50	24.51%	
機会があれば学びたい	76	47.20%	120	58.82%	
どちらともいえない	15	9.32%	19	9.31%	n.s.
学ばなくてよい	9	5.59%	10	4.90%	
不明	1	0.62%	5	2.45%	

表18 洋服の処分方法

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
捨てる	84	52.17%	130	63.73%	p=0.026
売る	90	55.90%	28	13.73%	p=0.000
資源として回収業者に出す	11	6.83%	21	10.29%	n.s.
譲る	66	40.99%	115	56.37%	p=0.04
自分で作りかえる	17	10.56%	9	4.41%	p=0.023
その他	4	2.48%	35	17.16%	p=0.000

表19 洋服の処分方法 (売る)×方法

(複数回答)

	本学 n=90		学院 n=28		p 値
	f	%	f	%	
古着屋に持って行く	62	68.89%	4	14.29%	p=0.000
フリーマーケットに出す	16	17.78%	6	21.43%	p=0.005
その他	11	12.22%	12	42.86%	n.s.
未記入	14	15.55%	10	35.57%	

表20 洋服の処分方法 (譲る)×譲り先

(複数回答)

	本学 n=66		学院 n=115		p 値
	f	%	f	%	
兄弟、姉妹	29	43.94%	42	36.52%	n.s.
友達、知人	38	57.58%	23	20.00%	p=0.002
その他	3	4.55%	9	7.83%	n.s.
未記入	5	7.57%	51	44.34%	

表21 資源ごみの分別回収状況

(複数回答)

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
ペットボトル	139	86.34%	146	71.57%	p=0.001
ビン・缶	128	79.50%	133	65.20%	p=0.003
紙類	80	49.69%	112	54.90%	n.s.
携帯電話	10	6.21%	60	29.41%	p=0.000
その他	3	1.86%	19	9.31%	p=0.003

表22 エコイベントへの参加状況

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
ある	15	9.32%	50	24.51%	p=0.000
ない	146	90.68%	154	75.49%	

表23 新たに取り組めそうなエコ活動

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
ある	26	16.15%	32	15.69%	n.s.
ない	134	83.23%	171	83.82%	
不明	1	0.62%	1	0.49%	

表24 「3R」とエコの理解度と関心度

	本学 n=161		学院 n=204		p 値
	f	%	f	%	
「リデュース」の意味					
理解している	81	50.31%	35	17.16%	p=0.000
聞いたことはあるが理解していない	76	47.20%	70	34.31%	
聞いたこともない	1	0.62%	98	48.04%	
不明	3	1.86%	1	0.49%	
「リユース」の意味					
理解している	95	59.01%	99	48.53%	p=0.000
聞いたことはあるが理解していない	65	40.37%	53	25.98%	
聞いたこともない	1	0.62%	51	25.00%	
不明	0	0.00%	1	0.49%	
「リサイクル」の意味					
理解している	137	85.09%	112	54.90%	p=0.000
聞いたことはあるが理解していない	22	13.66%	46	22.55%	
聞いたこともない	1	0.62%	43	21.08%	
不明	1	0.62%	3	1.47%	
エコの知識					
ぜひ深めたい	38	23.60%	104	50.98%	p=0.000
少しは深めたい	90	55.90%	89	43.63%	
どちらでもよい	31	19.25%	8	3.92%	
深めたくない	2	1.24%	0	0.00%	
不明	0	0.00%	3	1.47%	

IV. 調査結果のまとめ

今回の調査結果より、本学学生と学院生を比較し、以下の点が明らかになった。

- ①本学学生の約7割が実家暮らしに対し、学院生の約9割が寮生活であった。
- ②本学学生はファッションへの興味を持ち始める年代が小中高の各時代に約3割を示しているが、学院

生は高校時代以降が約6割だった。

- ③流行に興味のない本学学生が流行を取り入れない理由として、同じ格好を嫌う割合が約7割を示していた。
- ④本学学生は1人で買い物をする割合、学院生は誰かと買い物をする割合が高かった。
- ④洋服の購入場所として、本学学生はファストファッションストアと古着屋で、学院生はネットショッピングで購入する割合が約6割だった。

- ⑤古着を所持している本学学生の割合は学院生より高かった。
- ⑥洋服の直しの経験について、本学学生の約7割は経験があり、学院生は約3割であった。
- ⑦「リメイク」という言葉の理解について、学院生の約3割が聞いたことがなく、本学学生の約9割は意味を理解している。しかし、リメイク経験のない本学学生は約7割と高かった。
- ⑧「リメイク」の経験はないが「リメイク」体験への興味、関心を持っている割合は両学生共に約7割～8割と高かった。
- ⑨「直し」方法や「リメイク」方法について、学びたい学生の割合は両学生共に8割を超える高い割合であった。
- ⑩処分方法として、服を古着屋へ売って処分する割合が学院生より本学学生のほうが高かった。
- ⑪エコのイベントへの参加状況、取り組みそうなエコ活動については両学生ともに低い割合ではあるが、ペットボトル、ビン・缶、紙類の回収状況の割合は高かった。
- ⑫3Rの意味の理解度について、本学学生の「リサイクル」の意味について理解している割合は高く、「リ

ユース」、「リデュース」について聞いたことはあるが理解していない割合が「リサイクル」に比べて高かった。学院生は本学学生より、3Rを理解している割合が低く、特に「リデュース」については低かった。しかし、エコの知識を深めたい本学学生は約8割、学院生は約9割とともに高い割合であった。

V. 総括

今回の調査で、本学学生と学院生のファッションとエコの実態の一端が明らかになった。

本学学生はファッションに興味を持ち始める年代に幅があり、流行への興味を持たない割合が高めであり、同じ格好を好まないという理由を示している。また、服は自分一人で、店に出向き選んで購入している。新品の服だけでなく、古着も持っているという特徴が見られる。エコに関して、「3R」や「リメイク」など言葉の意味は理解しているが、積極的なエコの実践をしていない傾向が見られる。

学院生はファッションに興味を持ち始める年代の多くが高校時代以降で、流行に対して興味を持っている割合が高い。服は友達や親など誰かとともに買いに行

この調査は、ファッションを学ぶ日本と中国の学生の洋服への意識とエコへの関心に関する研究を行うためのものです。この調査は全体で集計し機械的に処理をします。個人を特定したり、名前や回答が外部へ流失することはありません。お手数をお掛けしますが、ご協力お願いいたします。

杉野服飾大学・同短期大学部 田原美津子、井口多恵子

問1) あなたの生活についてお聞きします。次の質問のうち該当するものに○を付けてください。

1. 所属 ① () 大学モードクリエーションA ② () 大学ドレス構成論・実習Ⅲ
③ () 大学インダストリアルパターンA ④ () 短期大学部
2. 性別 ① () 男 ② () 女
3. 生活環境 ① () 実家<家族と一緒に> ② () 寮
③ () 1人暮らし ④ () その他 ()

問2) ファッションに興味を持ち始めたのは何歳頃ですか？

- ① () 5歳頃まで<小学生前> ② () 6～11歳頃<小学生時代>
③ () 12～14歳<中学時代> ④ () 15～18歳頃<高校時代> ⑤ () 19歳～現在

問3) 何がきっかけでファッションに興味を持ちましたか？(3つまで)

- ① () テレビ、映画などモデルや歌手を見て ② () ファッション雑誌を読んだ
③ () 家族からの影響 ④ () 友人や親しくしている人 ⑤ () その他 ()

問4) 服を買うときは、誰と行くことが多いですか？

- ① () 1人 ② () 友達 ③ () 親 ④ () 兄弟 ⑤ () その他 ()

問5) 去年5月から現在までの1年間であなたは洋服を何枚くらい手に入れましたか？

- ① () 0～5枚 ② () 6枚～10枚 ③ () 11枚～15枚
④ () 16枚～20枚 ⑤ () 20枚以上

問6) 1ヶ月に洋服を購入するために使う金額はいくらぐらいですか？

- ① () 5,000円以内 ② () 5,000円～1万円 ③ () 1万円～15,000円
④ () 15,000円～2万円 ⑤ () 2万円～25,000円 ⑥ 25,000円～3万円
⑦ () 3万円以上 () 円

問7) 1ヶ月のおこづかいはいくらですか？

- ① () 5,000円以内 ② () 5,000円～1万円 ③ () 1万円～15,000円
④ () 15,000円～2万円 ⑤ () 2万円～25,000円 ⑥ 25,000円～3万円
⑦ () 3万円以上 () 円

問8) 1着をどのくらいの期間着ますか？

- ① () 1年 ② () 2年 ③ () 3年 ④ () 5年 ⑤ () 5年以上

問9) 洋服は新品を購入しますか？

- ① () いつも新品を購入する ② () たまに新品を購入する ③ () まったく購入しない

問10) 洋服で古着を持っていますか？

- ① () すべて古着である ② () 少し古着を持っている ③ () まったく持っていない

問11) 洋服はどうやって手にいれますか？(複数回答可)

- ① () お店に行って買う ② () ネットで買う ③ () テレビの通販、雑誌の通販で買う
④ () 家族や知人から譲り受ける ⑤ () 自分で作る ⑥ () その他 ()

問12) よく洋服を購入するのはどこですか？(複数回答可)

- ① () ファストファッションストア ② () チェーンストア ③ () アウトレット
④ () 古着屋 ⑤ () 雑誌でとりあげられたお店 ⑥ () ファッションビル
⑦ () デパート ⑧ () 家の近くでなじみのお店 ⑨ () ショッピングモール
⑩ () ネットショッピング(サイト名:) ⑪ () 通販(番組名:)

問13) 自分が持っている洋服を直したことがありますか？

- ① () 自分で直した ② () お店に頼んだ ③ () 直したことがない

▼⑩⑪と答えた方にお聞きします。どこを直しましたか？(複数回答可)

- ① () 丈を短くする ② () ボタンを付け直す ③ () ほどけた糸を縫い直す
④ () サイズ直し(直した箇所:) ⑤ () その他 ()

問14) 「リメイク」と言う言葉を知っていますか？

- ① () 言葉の意味を理解している ② () 聞いたことはある ③ () 聞いたこともない

問15) 持っている洋服を改造、リメイクしたことがありますか？(例: ボタンを付け替えた、Tシャツをバッグにした、など・・・)内容を具体的に書いて下さい。

- ① () ある

▼具体的に何をしたら書いて下さい。

- ② () ない

▼②と答えた方にお聞きします。リメイクをしてみたいと思いますか？

- ① () とても思う ② () 少し思う ③ () どちらでもない ④ () やりたくないと思わない

問16) 「直し」「リメイク」の方法を学んでみたいと思いますか？

- ① () ぜひ学びたい ② () 機会があれば学びたい ③ () どちらともいえない
④ () 学びたくない

裏面のアンケートの回答をお願いします！

問17) 着なくなった服はどのようにしますか？ (複数回答可)
 捨てる
 売る・・・()古着屋に持って行く ()フリーマーケットに出す ()その他 ()
 資源として回収業者にだす
 譲る・・・()兄弟、姉妹 ()友達、知人 ()その他 ()
 自分で作りかえる
 その他 ()

問18) 衣の資源の分別回収を行っていますか？ (複数回答可)
 ペットボトル ビン、缶 紙類 携帯電話 その他 ()

問19) エコ関係のイベントに参加しことがありますか？
 ある
▼イベント内容はどんなものですか？具体的に書いて下さい。
 ない

問20) 日常の中で新たに取組みそうなエコ活動はありますか？
 ある
▼どんな活動ですか？具体的に書いて下さい。
 ない

問21) 3Rの中で、「リデュース」の意味を理解していますか？
 理解している 聞いたことはあるが理解していない 聞いたこともない

問22) 3Rの中で、「リユース」の意味を理解していますか？
 理解している 聞いたことはあるが理解していない 聞いたこともない

問23) 3Rの中で、「リサイクル」の意味を理解していますか？
 理解している 聞いたことはあるが理解していない 聞いたこともない

問24) エコに関する知識を深めたいと思いますか。
 ぜひ深めたい 少しは深めたい どちらでもよい 深めたくない

問25) 今までに誰かのために洋服を作ったことがありますか？
 ある・・・()10着以上 ()9~6着 ()5~2着 ()1着
 ・・・()自分 ()家族 ()友達 ()その他 () (複数回答可)
 ない

問26) 流行に興味はありますか？
 大いにある 少しある どちらでもない あまりない
 まったくない
▼④⑤と答えた方にお聞きします。なぜ、流行を取り入れないのですか？ (複数回答可)
 価格的に無理 自分らしくないから 同じ格好になるのは嫌 体型的に無理
 その他 ()

問27) ファッション情報は、どこから取り入れますか？ (複数回答可)
 タレント、歌手、モデル (名:) ファッション雑誌 (雑誌名:)
 ネット (サイト名:) ショッピング (店・町の名前:)
 友人や家族など (何人くらいから?)
 その他 ()

* * * * * ご協力、ありがとうございました。 * * * * *

くという特徴が見られ、古着をまったく持っていない割合が高い。エコに関して、「3R」や「リメイク」など言葉の意味の理解度に差があり、積極的なエコの実践をしていない傾向がみられる。

生活環境や習慣、文化の違いが関係して、両学生の実態に特徴があったが、一方でエコやリメイク経験の割合は低いがエコの知識は深めたい割合は高く、両学生共にエコへの意識、関心は持っていると考えられる。今後、分別回収などの一般的に行われているエコ活動だけでなく、ファッションに関するエコ知識と活動を広め、意識付けできるような取り組みや教育を展開していくことが重要であることが明らかになった。今回の調査では、生活環境やファッション特性とエコ意識との関わりでは有意差が見られなかったが、生活環境とライフスタイルに合った継続できるエコ活動の必要性を考えていくことが今後の研究の方向性であり、さらにファッションとエコに関して詳細な実態を把握するために設問内容を検討し、アンケート調査を継続していきたいと考えている。

註

- 1) 環境省の歩み www.env.go.jp/guide/gyomu_pdf/pdf/p034-035.pdf (平成27年10月28日最終アクセス)
- 2) 製造産業局繊維課「繊維製品3Rシステム検討会報告書」平成23年6月 pp. 2-3.
- 3) 環境省 3R推進マイスター活動支援小冊子「3Rまなびあいブック」(2015) pp. 5-14.
- 4) 註2に同じ p. 3.
- 5) 「3Rを知る・学ぶ」3R活動推進フォーラム事務局 H.P (平成27年10月18日最終アクセス) <http://3r-forum.jp/3r.html>
- 6) 汪 志平『札幌大学総合論叢 第2号』「中国の高等教育制度と大学革命」(2012) p. 65.
- 7) 人民网 第18期中央委員会第4回全体会議「禁じられた禁忌」(2014年10月20日) <http://www.recordchina.co.jp/a95979.html> (平成27年10月18日最終アクセス)
- 8) 林 隆『社会学部論集 第46号』「衣服に関するリサイクル意識と行動」(2008) p. 5.

参考文献

- ・独立行政法人 中小企業基盤整備機構「繊維製品3R 関連調査事業」報告書 (2010) p. 5.
- ・劉 玉潔 大学生の人間関係 ――一日中大学生の比較 www.josai.ac.jp/~omaesemi/archives/human_20141220.pdf
- ・一般社団法人 日本衣料管理協会「女子学生の衣料に関する調査(日韓中台における国際調査)」(2012)
- ・福村 愛美、真鍋 祥子 (明石被服興業株式会社) 『倉敷市立短期大学研究紀要 No. 56』「古着ファッションについて」(2012) p. 67.
- ・橋本 光代 (共立女子大学) 小林 茂雄 (元共立女子大学) 「衣料品の廃棄およびリサイクルの意識と環境への関心度に関する女子大生と母親の比較」(2010)
- ・菅沼 恵子 (湘北短期大学 生活プロデュース学科) 日本衣料管理協会による「衣料の使用実態調査及びトピックス調査」(2011)